

■事例概要カルテ 44

部 門	都市公園事業		
名 称	国営昭和記念公園	所 在 地	東京都立川市、昭島市
事 業 者	国土交通省関東地方整備局	規 模	約 180ha

事業概要	時間経過を考慮した景観形成:目標とする景観を創出するための適正な維持管理		
事業手法	都市公園事業(国営公園)		
事業期間	平成5年度 ~		
規制・誘導方法	—		
配慮・工夫事項	・苗木から良好な雑木林を育てるための長期的な維持管理手法を実施		



良好な雑木林とするため、市民の手により植栽密度を適正に管理



市民により約1万本の苗木を植栽。その後もボランティアにより、伐採、下草管理を実施



豊かな緑と深い樹林地を基調とした武蔵野の景観を蘇生

国営昭和記念公園は、昭和天皇御在位五十年記念事業の一環として、米軍立川基地跡地の一面に建設された総面積約180haに及ぶ国営公園である。昭和58年の第I開園以来順次施設を整備し、現在約148haが一般に開園されている。

本公園は、首都圏のレクリエーション需要に対応する大規模公園であるとともに、都市に潤いをもたらす貴重な緑の空間として、多くの人が集い、交流する憩いの空間としてその役割をはたしている。

基地跡地では、本公園の他に広域防災基地や業務地等が整備されており、周辺の既成市街地と一体となった新しい良好な市街地の形成が期待されている。



位置図

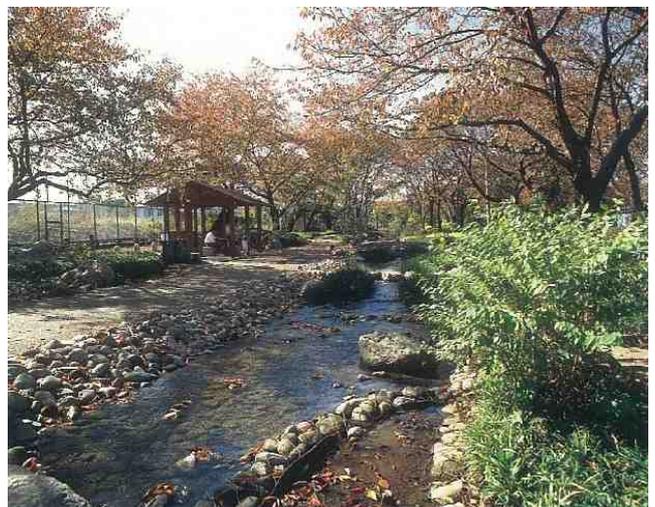
事業段階区分			立地区分				
構想・計画	設計・施工	維持管理	都心部	市街地 (商業・業務)	市街地 (住居系)	郊外	その他

部 門	都市公園事業		
名 称	立川公園(根川緑道)	所 在 地	東京都立川市
事 業 者	立川市	規 模	約 3.5ha

事業概要	都市全体の景観の向上:河川事業との一体化による都市の景観軸の創出
事業手法	都市公園事業(総合公園)
事業期間	平成4年度 ~ 平成8年度
規制・誘導方法	—
配慮・工夫事項	・廃川となった根川に、処理場の高度処理水を日量 2,700t 供給し、水路を復元するとともに、水路を取り込んで四季の変化を感じられる植栽を施し、都市の景観軸を構成する河川景観を創出



桜の花びらがネコヤナギの岸辺を流れる「春の小川」の風景



秋の陽射しが桜の紅葉を透かして水面に映える「秋の水辺」の風景

緑道沿いには親水階段のある池や水辺にはり出した四阿、子供たちが安心して遊べる水の広場などがつくられ、散策や水生動植物の観察に絶好の場となっている。また、崖線部から流れ込む湧水や古木となったソメイヨシノの並木などは保全され、さほど広くない幅員であるが、土手—河原—水路の連続性が違和感なく見事に再現された景観をつくり上げている。四季の変化を感じながら散策や水遊びが楽しめる地域住民の身近な憩いの空間となっている。



位置図

事業段階区分			立地区分				
構想・計画	設計・施工	維持管理	都心部	市街地 (商業・業務)	市街地 (住居系)	郊外	その他

■事例概要カルテ 46

部 門	都市公園事業		
名 称	国営アルプスあづみの公園	所 在 地	長野県大町市他
事 業 者	国土交通省関東地方整備局	規 模	約 353ha
事業概要	魅力的な公園区域内の景観形成：外部の景観を取り込み、地域らしさ・個性の演出		
事業手法	都市公園事業(国営公園)		
事業期間	平成2年度～		
規制・誘導方法	—		
配慮・工夫事項	・北アルプスの山岳、安曇野の田園の風景を活かした景観の創出		



段々に流れ落ちる大小10の池の一部では、生き物の観察や水遊びが体験可能



北アルプスのパノラマ



緑陰を抜ける小径



段々花畑では常念岳を背景に安曇野の景色を彩る四季折々の美しい草花を堪能



位置図

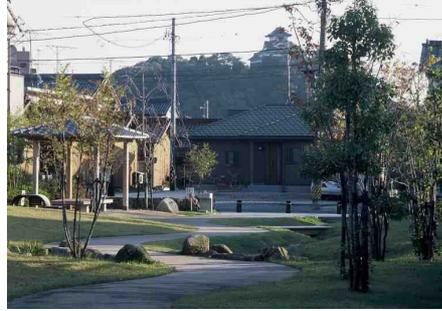
圧倒的な北アルプスのパノラマを活かした開放的な空間づくり、安曇野を彩る段々畑の花景観、園内を流れる水路や池の水景観、もともとあった森林を活かした里山景観など、地域の個性を引き出した景観づくりの工夫がされている。

事業段階区分			立地区分				
構想・計画	設計・施工	維持管理	都心部	市街地 (商業・業務)	市街地 (住居系)	郊外	その他

■事例概要カルテ 47

部 門	都市公園事業		
名 称	鵜沼南町公園	所 在 地	岐阜県各務原市
事 業 者	各務原市	規 模	約 0.16ha

事業概要	立地に応じた景観形成：身近な生活空間の中の安らぎある水辺景観創出
事業手法	都市公園事業(街区公園)
事業期間	平成 14 年度
規制・誘導方法	—
配慮・工夫事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各務原市は平成 13 年「水と緑の回廊計画」を策定し、「公園都市」の実現に向け、公園の整備を積極的に展開</li> <li>・公園づくりは、地域資源の発掘、水と緑のストックとなるデザイン、コミュニティのコアづくりを基本</li> </ul>



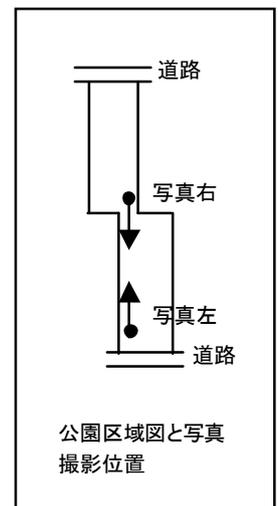
水の流れと明るい緑を基調にデザインされているが、公園の規模に合ったスケールであり、身近な公園として安らぎを感じさせる景観を創出(写真左・右)



公園計画では地域住民とワークショップを開催し、地域の求める公園について意見を反映



位置図



鵜沼南町公園は、公園未整備地域における初の街区公園整備として実施された公園である。公園づくりは地元自治会を中心とした市民参加により計画し、開設後の維持管理に至るまで市民と行政の協働により実施した。

敷地は狭く細長い空間であったため制約が多く、多くの住民要望をどのように実現するかが課題であった。数回の計画案の見直しと住民を交えた意見交換によって、芝生広場とせせらぎを中心とした計画案が作成された。公園計画の検討ワークショップにおいては、維持管理費の制約などの課題に対して、せせらぎの管理は、地域住民による管理を行う結論に達し、住民の求める公園像に向けて、前向きな議論が展開された。

事業段階区分			立地区区分				
構想・計画	設計・施工	維持管理	都心部	市街地 (商業・業務)	市街地 (住居系)	郊外	その他

■事例概要カルテ 48

部 門	都市公園事業		
名 称	国営讃岐まんのう公園	所 在 地	香川県満濃町
事 業 者	国土交通省四国地方整備局	規 模	350ha

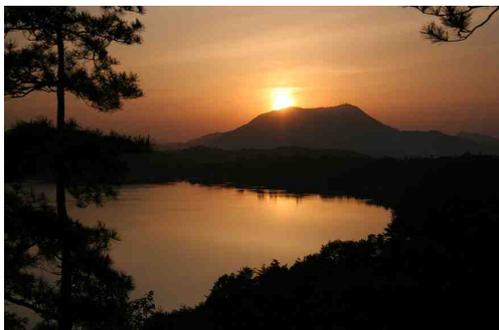
事業概要	魅力的な公園区域内の景観形成：満濃池・象頭山等良好な地域景観の活用
事業手法	都市公園事業(国営公園)
事業期間	昭和 59 年度 ～
規制・誘導方法	—
配慮・工夫事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の歴史的、自然的資源を活かすとともに、背景の山並などを借景とし、周囲の景観を眺めるのにふさわしい場所に眺望施設を設け、公園区域外の景観を積極的に活用</li> <li>・歩きながら変化に富んだ景観が楽しめるよう地形や空間の変化を利用</li> </ul>



満濃池展望遊歩道(展望デッキ)



満濃池展望遊歩道遠景



展望デッキから見た象頭山の夕日



位置図

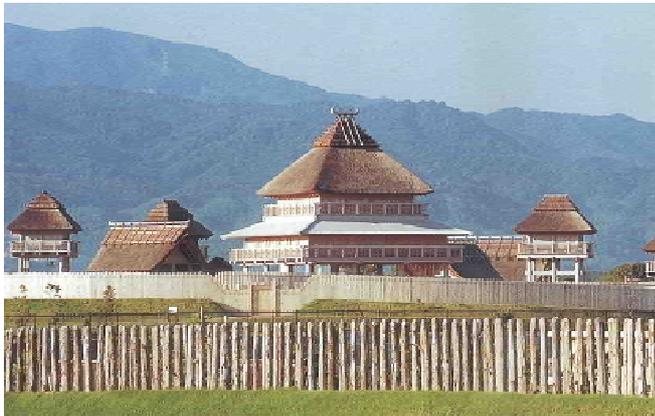
地域の歴史的・自然的資源であるとともに、良好な地域景観である満濃池を公園以外にはない池面から 40mの高さより見下ろしつつ、金刀比羅宮、象頭山等公園区域外を望むことのできる展望デッキが整備されている。

阿讃山脈を背景に橋上、林間、谷間等様々な場所や角度から変化に富んだ美しい満濃池の景観を望む、周辺景観と調和する木製デッキを中心とした満濃池展望遊歩道も整備されている。

事業段階区分			立地区分				
構想・計画	設計・施工	維持管理	都心部	市街地 (商業・業務)	市街地 (住居系)	郊 外	その他

部 門	都市公園事業		
名 称	国営吉野ヶ里歴史公園	所 在 地	佐賀県神埼町、三田川町、東脊振村
事 業 者	国土交通省九州地方整備局	規 模	約 54ha(国営公園区域)

事業概要	設置目的に応じた景観形成: 歴史的背景に基づいた景観形成
事業手法	都市公園事業(国営公園)
事業期間	平成7年度 ~
規制・誘導方法	—
配慮・工夫事項	・吉野ヶ里遺跡の保存を通じての本物のこだわりと、適切な施設の復元やわかりやすい手触りの展示などの遺跡の活用を通じて、弥生時代を体験できる場を創出



特に吉野ヶ里歴史公園の中心のゾーンである環壕集落ゾーンは、背景の山々を借景に遺構の上に環壕と主祭殿など弥生時代最大級の大型建築物が復元され、歴史ロマンを感じさせる風景を創出



環壕集落の西側にある古代の原ゾーン(県立公園区域)には弥生の水田が復元され、往時の手法による稲作を体験学習することができ、その体験風景そのものが、魅力ある景観を創出

平成7年度に工事に着手して以来、入口ゾーン及び環壕集落ゾーンの整備を進めてきており、平成17年4月1日現在では、隣接する県立吉野ヶ里歴史公園と一体的に利用可能な公園として、面積約57ha(国営公園約26ha、県立公園約31ha)が開園している。広く弥生時代の景観を感じさせる整備をはかり、強く心に残る歴史ロマンあふれる魅力ある風景を創出している。



位置図

事業段階区分			立地区分				
構想・計画	設計・施工	維持管理	都心部	市街地 (商業・業務)	市街地 (住居系)	郊外	その他

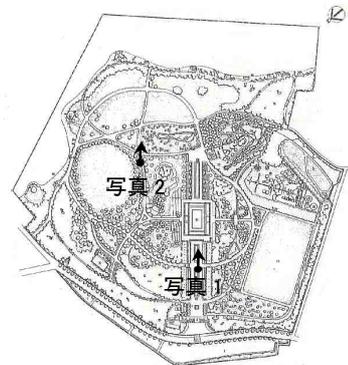
■事例概要カルテ 50

部 門	都市公園事業		
名 称	鹿児島県立吉野公園	所 在 地	鹿児島県鹿児島市
事 業 者	鹿児島県	規 模	約 31ha

事業概要	魅力的な公園区域内の景観形成：地域の景観資源を取り込んだ景観づくり
事業手法	都市公園事業（総合公園）
事業期間	昭和 39 年度 ～ 昭和 45 年度
規制・誘導方法	—
配慮・工夫事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿児島のシンボルである「桜島」を強調し、しかもよりシンボリックに見せるため、視界をさえぎらない程度の低い噴水とシンプルで開放的な空間として整備</li> <li>・クロマツの既存林を吉野公園の景観として活用</li> </ul>



鹿児島のシンボルである「桜島」を強調し、しかもよりシンボリックに見せるため、視界をさえぎらない程度の低い噴水(写真1)



写真撮影位置

【表彰等】  
・「都市公園 100 選」に選定  
(平成元年度)



位置図



吉野公園の景観の一つとなるクロマツの防風林(写真2)

本公園は、県民の休養、レクリエーション等の利用を目的として、昭和 39 年から約 8 年にわたり都市計画事業により整備した都市公園である。場所は、鹿児島市の中心から北東に約 8km 標高 234m の台地にあつて、展望台から錦江湾を隔てて、目前に雄大な桜島を、遠くに霧島連山や開聞岳を眺望できる。

事業段階区分			立地区分				
構想・計画	設計・施工	維持管理	都心部	市街地 (商業・業務)	市街地 (住居系)	郊 外	その他